

Windows Vista時代の デバイス・ドライバ開発

第5回 Windowsロゴ取得の手順(その3)

日高 亜友, 川出 智幸, 相良 徹

Windowsロゴ取得の手順を3回に分けて紹介してきた。今回は、テスト・ログの解析方法について解説する。

(編集部)

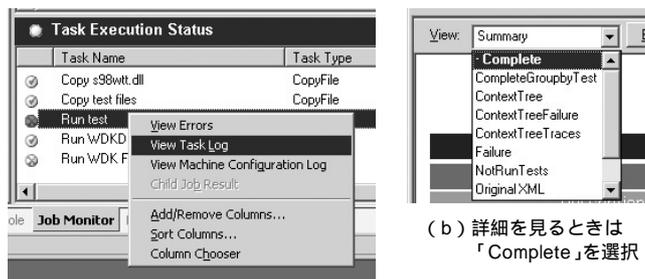
デバイス・ドライバの開発環境は年々充実してきています。いろいろなドライバが手軽に作れる環境も整ってきました。しかし、エラーが発生したときの解析には、やはりOSやハードウェアの知識が必要になります。最近ではOS関連の技術書籍も多く、Windows Driver Kit(WDK)などのドキュメントも充実しています。ドライバ開発を行うにあたって、これらを読むことをお勧めします。

1. テスト・ログの解析

テスト・ログを表示

前号(本誌2007年8月号, pp.173-178)の最後に解説したDriver Test Manager(DTM)スタジオのJob Monitorで結果を確認します。

テストに失敗すると、Task Nameの左側に赤色のアイコンが表示されます。エラーが検出されたテストのログを見るためには、そのTaskを右クリックして「View Task Log」を選択します(図1(a))。Taskによってはさらに細分化された項目も存在します。その場合は「View Child Job」を選択し、さらに下位のJobを閲覧します。



(a) 「View Task Log」を選択

図1 エラーが検出されたテストのログを見る

「View Task Log」を選択すると、「Test Result Report」が表示されます。レポートの表示形式は「View」から選択します。テスト・ログの詳細を見るときは「Complete」を選択します(図1(b))。

Errata更新ツールを取得

HCT(ハードウェア互換性テスト)とは異なり、DTM環境ではErrata更新ツールをDTMコントローラに登録し、テスト結果に直接反映できます。Errata更新ツールは、以下のMicrosoft社のWebサイト、もしくはWinqalサイトから取得します。

<http://go.microsoft.com/?linkid=5618167>

上記よりErrata Filterのキャビネット・ファイルをダウンロードします(更新する頻度が高いため、その都度確認する)。Errata更新ツールを取得後、DTMコントローラ上でFilterUpdater.exeを実行すると更新されます。

Errataを適用

テスト結果にErrataを適用するためには、DTMスタジオよりDevice Consoleダイアログを表示し、Submissionダイアログ右の[Status]ボタンをクリックします(図2(a))。図2(b)にErrata適用例を示します。

Errataを適用すると、適用された内容がJob Monitorおよびログ・レポートに反映され、「Passed」表示に更新されます(図2(c))。

サブミッション・パッケージを準備

すべてのテストをパスすると、Windowsロゴ申請を行うためのサブミッション・パッケージを作成します。Device ConsoleからSubmissionを指定した後、「Available Device」に表示されたSubmissionアイコンを右クリックし、「Create Submission Package」を選択します(図3)。

ここで、サブミッション・パッケージ・ファイルのパスを指定すると、cpkファイルが作成されます。

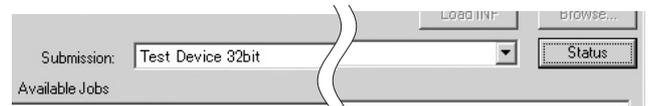
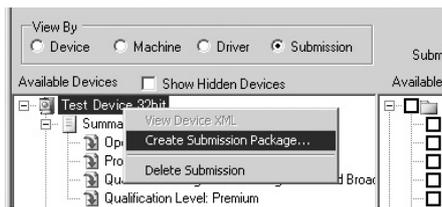
DTM Log Viewer でサブミッション・パッケージを確認

作成された cpk ファイルの内容を確認するには、DTM Log Viewer を使用します。このツールは、以下の Web サイトからダウンロードできます。

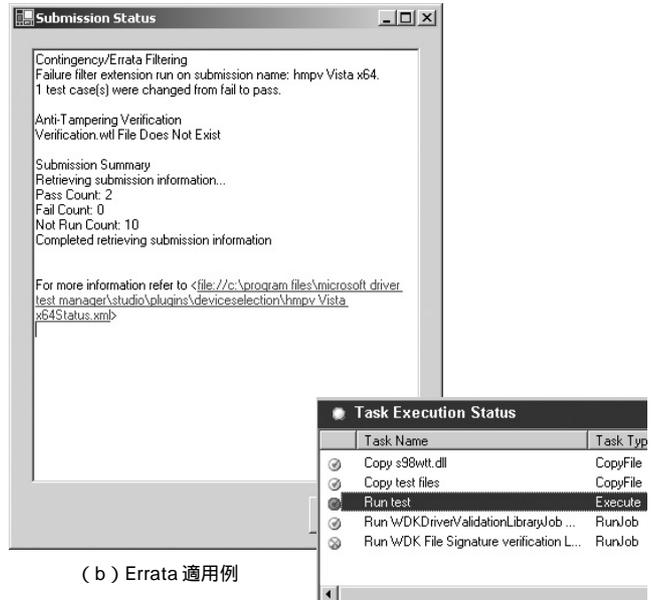
<http://www.microsoft.com/japan/whdc/whql/WHQLdwn.msp>

DTM Log Viewer のインストールが完了すると、スタート・メニュー内の「すべてのプログラム」に WHQL DTM Log Viewer のショートカットが作成され、cpk ファイルのアイコンが更新されます。ここで、作成した cpk ファイルをダブルクリックすると、DTM Log Viewer が起動し、cpk ファイルの情報を参照できるようになります。

図3
サブミッション・
パッケージの準備



(a) Submission ダイアログ右の[Status]ボタンをクリック



(b) Errata 適用例

(c) 適用された内容が反映される

図2 Errata の適用

図4
DTM によるテストの完了

